

# 日韓研究会「農村の現代的課題」

日韓研究会は、日本建築学会農村計画委員会と韓国農村建築学会との共催で、これまでに計12回、日本と韓国それぞれにおいて隔年で開催し、農村地域における住民参加型のまちづくり・むらづくり、住民主体による地域経営の計画手法等について継続的に議論を重ねてきた。

今回の研究会は、韓国の全羅北道高敞郡で開催し、現在、農村では何が問題となっており、その問題をめぐりどのような状況にあるのかについて、日本・韓国の農村地域の事例をもとに把握する。そのうえで、それらを今後の計画に際する現代的課題として整理し、その共有を試みる。

**共 催**：日本建築学会農村計画委員会、韓国農村建築学会  
**日 時**：2014年2月22日（土）13:00～17:30 \*翌日、見学会を開催  
**会 場**：全北大学校 高敞キャンパス（韓国・全羅北道 高敞郡 高敞邑 泰封路361）

## ■プログラム

### 1. あいさつ

梁 金石（韓国農村建築学会会長／慶南科学技術大学校）

岡田知子（日本建築学会農村計画委員会委員長／西日本工業大学）

### 2. 研究発表

韓国側の講演（未定）

齋藤雪彦（千葉大学）

大都市近郊農村地域における集落空間の変容

—東京首都圏とソウル首都圏を事例として—

TRANSFORMATION OF RURAL SETTLEMENTS IN SUBURBAN AREA

-CASE STUDIES IN TOKYO AND SEOUL METROPOLITAN AREA-

後藤隆太郎（佐賀大学）

沿岸集落の被災と復興計画

—福岡県西方沖玄界島（日本）の事例を中心に—

DISASTER AND RECONSTRUCTION PLANNING OF COSTAL VILLAGES

-CASE STUDIE IN GENKAIGIMA FISHERY VILLAGE, FUKUOKA JAPAN-

### 3. 討論

講演者全員

### 4. まとめ

川嶋雅章（明治大学）

※翌2月23日（日）は見学会を開催

全州の歴史的な街並みと郊外の農村を見学する

**参加費**：会員1,000円、会員外1,500円、学生500円

**定 員**：20名（申込み先着順）

**申込方法**：事前申込み（催し物名称を記し、氏名・勤務先・所属・同住所・同電話番号を明記し、メールにて申し込む）

**申 込 先**：栗原伸治（日本大学） [skuri@brs.nihon-u.ac.jp](mailto:skuri@brs.nihon-u.ac.jp)

**申込締切**：2014年2月14日（金）